

第57回 エフエム伊東 番組審議委員会			議事録
会議場所	伊東ふれあいセンター3階 多目的ホール	日時	令和8年3月17日(火) 14:00~15:10
出席者	委員総数8名、出席委員数5名(内書面提出1名) 稲葉雅之・小川嘉洋・山下明子・土屋由美子 各委員 山田毅委員は文書で回答、渡邊将・片山清香・片山智幸委員は欠席 放送事業者: 岩崎代表・池田チーフディレクター・金指		
【議事】 岩崎代表取締役より挨拶、委員の紹介、現状説明があった。			
審議委員より意見、感想 *テーマ: 防災について FM伊東事務局: <p>平日は午前7:30~の生放送で、土日は8:30~の生放送で「防災一口メモ」を放送している。「地震対策」や「台風対策」など、パーソナリティの生の声で届けている。資料にあるように30パターンくらいあるが、通常はルーティンだが、台風が近づいている時には台風の情報に変えて放送している。いつも聴いているパーソナリティの声であれば、「動かなければいけない」など考えてくれるリスナーが多い。津波避難情報が出た時にも、「早く逃げて」など声をかけてくれるリスナーも多かった。</p> FM伊東事務局: <p>記録的積雪や、台風の接近もあったが、7月にあったカムチャッカ半島の地震では、津波警報が発令された。松川町のスタジオは津波がくると水に浸かってしまうので、市役所の地下のスタジオに移動して放送した。市役所スタジオは、訓練では使用し放送していたが、警報があってから実際にそのスタジオを使用したのは、その時が初めてだった。</p> FM伊東事務局: <p>「防災一口メモ」の資料はそのまま読むのではなく、読んだ後にその日の感想を言ったり、生放送なのでその時の状況に即した形で伝えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録的積雪のあった次の日、2026年2月9日(月)の「防災一口メモ」の番組音声を聴く。 ・東日本大震災15年の翌日、2026年3月12日(木)の「防災一口メモ」の番組音声を聴く。 			
(1)			

FM伊東事務局:

「雪対策」と「地震対策」についての内容で、各パーソナリティがコメントをつけながらその時にどう本人が感じているかなど、伝えてくれている。

この2番組の音声を聴いて、いかがでしょうか？

審議委員:

30パターンの防災一口メモがあるが、雪予報があったものの、ここまでになるとは想定できなかったと思うが、既にこの「防災一口メモ」の資料はあったのか？

FM伊東事務局:

「大雪対策」として準備できていた。あらゆる事象に対してのパターンは用意している。

審議委員:

3月12日の放送は「地下街」のことであったが、伊東に地下街はないが、出かけた時に出くわすかもしれないということだと思うが、今後も想定されることが多岐にわたり増加していくのか？

FM伊東事務局:

増加していくと思われる。また、レディモのアプリで聴いている方は、県外や市外の方も多いので、伊東市だけに限定していない。

審議委員:

大雪が降った時や地震が起きたときではなく、日頃からの備えを喚起するために、毎日放送していることに意味があると思う。各自が、備えることに繋がっていく。聴いていて「地震が起きたらどうしよう」と感じることや、「行った先で火災が発生したら」ということ、その備えのために各自行動を起こすこと、どのような備えをしていくかなど膨らませていくことはできる。避難の場所などの情報提供はどのようにしているのか？

FM伊東事務局:

現在の「防災一口メモ」では、避難場所の詳細なところは入れていないが、今後は入れていくことも考えたい。避難所の開いている時だけでなく、「この場所とこの場所が避難場所になると思う」になってしまうが、「お近くの方はこの避難所を確認しておいてください」というものも必要なのかもしれない。

審議委員:

「防災一口メモ」は30パターンあるようだが、台風だと夏から秋にかけて必要になる情報だと思うが、毎日流すと情報として飽きられてしまうのではないかというイメージがあった

が、それぞれのパーソナリティが、オリジナルの自分のコメントとして入れることで、また新しい気持ちで聴くことができる。生で、皆さんの声でしゃべっていただくことは大切だと思った。

審議委員:

「防災一口メモ」は一日に、この時間の一度だけなのか?

ラジオは何か気に取られて、聞き逃すこともある。1日に3~4回流し反復して聞き覚えるものだと思う。一日に一度の内容は忘れてしまう。良い内容は耳に残るように、朝・昼・夕・夜に反復してやったらどうかと思う。

FM伊東事務局:

生放送が朝・昼・晩とあるので、「防災一口メモ」を5分ぐらいずつ入れ込むことを検討したい。朝・昼・晩と違うパーソナリティが同じ内容を、オリジナルのコメントを入れて伝えていきたい。

伊東の皆さんは他地域に比べて、防災の意識が高い。伊東市民は、ラジオの重要性をわかっている。防災に関しては今後も力を入れていきたい。

この他に伝えたほうが良い内容や欲しい情報はありますか?

審議委員:

去年の7月の地震の時に、市の防災マップを見て避難した場所がある。

しかし、その避難場所で、ここは「避難場所」であって、「避難所」ではないと言われた。「避難場所」は一時的なもので、「避難所」は滞在できる場所であるとのことだった。「避難場所」では、食べ物や飲み物やお布団などは出ませんと言われた。電車が止まってしまうと、その避難場所に来る人もどんどん人も多くなっていった。「避難場所」や「避難所」の区別をどうやってつけるのかがわからない。

FM伊東事務局:

日頃から、「避難場所」と「避難所」は違うと伝えているが、実際に起こった時に行かれる皆さんにとっては、その違いはあまり関係ないように思われる。

審議委員:

市内では、東小が避難所になるが、津波で危険な時に、縦断して東小まではいけない。警報が解除されるまでの6時間くらい、避難場所で身体を伸ばすこともできず、車椅子に座っていた。最初から避難所へ行くべきなのか。

審議委員:

災害の種類にもよると思う。津波の時には、緊急なのでいったん一番高いところへと非難する。それが長期化するようなら、避難所へ移っていただくというものではないかと思われる。

審議委員:

杖をついてくる方も、身体を支えられて来る方もいる。

避難場所から避難所へ行く時には、そういう要請があったらサポートがある体制があると良いと思う。

審議委員:

災害の規模や種類にもより、津波や、地震が起きて家屋が倒壊してしまったりすると車を動かすことも難しく、自衛隊への要請などになってしまうと思われるが、こういう場合にはどうするなど考えていくことも重要だと思う。

FM伊東事務局:

ラジオ放送の立場からは、「避難所」と「避難場所」の違いは伝えていく。

記録的積雪のあった日の対応については、先日伊豆新聞に掲載された(2026年3月13日)「防災一口メモ」の改善点は、重複して伝えること。その他に伝えた方が良い情報などあるか?

審議委員:

要介護者、高齢者、障がい者がそう簡単に避難所へは移動ではなく、その対応を前提としたシステムは作られていない。実際に本当に起きた時は、大変なことになると思う。

エフエムではどう放送するかが問題なので、伝えたくても、その伝えた内容に従って本当に大丈夫なのか、関係各所としっかり検討して欲しい。

実際に被災して困る頻度は、地震が一番でその先に津波がある。火災が「災害一口メモ」の自然災害に入っているのには違和感がある。大雨や台風は比較的突然やってくるものではない。まったく備えていなくて、忘れた頃に突然やってくる地震の注意喚起は、日頃からやっていく必要がある。何日か前からわかる台風や大雨などと、同じ頻度で伝えるのではなく、優先度を変えた方が良いと思う。

災害弱者の避難や安否確認を確実にできる方法を、社会インフラを活用して仕組みを作ることが必要。ラジオ放送は、行方不明者の救助活動や捜索活動にもつながっていく。

FM伊東事務局:

そういった役割を担っていることを認識し、もう一度各パーソナリティにも伝えていく。

大きな災害になった時は実際にどうなるかわからないが、私たちは来た情報を伝えていく。

審議委員:

市民の安全を守るのもラジオの大事な役割。安全に生活するための社会的貢献になっている。市民がもっと「私たちのために存在してくれている」という意識を持ってくれば、もっと活動しやすくなると思う。

FM伊東事務局:

宇佐美と池地区に難聴地域がある。どうしたらいいかと考えていた時に、市長が難聴対策補助金という調査費を議会に上程してくれた。

審議委員:

各家に個別アンテナを付けて、エフエムが聞こえるようにというアンテナの補助金は設定されたが、アンテナをつけるためには、本当につけたら聴こえるかという調査を、エフエムに依頼するという形になる。

調査をしたうえで、設置すれば聴けるだろうという家には、補助金を活用しつけてもらい、それでも全く聴こえないなど、ニーズを把握し、中継アンテナをどうするかという検討の話の基礎になると思う。

FM伊東事務局:

いただいた意見をもとに、「防災一口メモ」については、早ければ4月から改正していきたい。

2月8日の記録的積雪では、緊急体制をとった。その日は深夜の1時過ぎまで放送した。またパーソナリティからの情報や、有料の交通情報、熱海土木や東海バスはFAXやメールで、情報が随時入ってくる。また、伊東市の公式のメールマガジン、エフエム伊東の特派員であるタクシーの運転手の方の情報、マリンタウンやシャボテン公園などの各施設の情報を集約し、一番新しい情報を随時15分置きに、最初は緊急であったので緊急告知ラジオで割り込み発信した。少し落ち着いてからは30分おきに放送した。9日・10日も、生放送の中で30分おきに情報を伝えた。11日からは、給水の情報が入ってきたので、その後一週間ぐらい給水の最新情報を随時伝えた。このことについては、意見交換会が25日にあるので、その日の動きを伝えていきたいと思う。

この防災のためにエフエム伊東の局があると思っている。いざという時に役に立ってほしい。私たちがどうすることが、皆さんの命を救うことになるのか考えていきたい。

審議委員:

町内会の避難訓練に参加しようとしたら拒否されてしまった。また、浸水する恐れがある台風の時に、ふれあいセンターが避難所になったので避難してきたが、エレベーターは使えないので、階段で行ってくださいと言われた。車椅子だったので、階段は上れない。そのまま帰った。近所には、施設にも行っておらず、ヘルパーも身近にいない、キャリーカーで買い物へ行くのがやっとの方もいる。身近な避難所に避難できる体制になって欲しい。

審議委員:

一部の町内の防災訓練は、ノルマをこなすだけになっている実態もある。

地震や台風が起きて、避難が必要になった場合の想定をしっかり行っていない。

エフエムやシーブイエーがせっかく放送しても、うまく伝わらないことになってしまうので、市長にリーダーシップをとっていただいて、実のある災害対策を行って欲しい。

FM伊東事務局:

先日の記録的積雪では、市長が先頭に立って指示してくれていたのもとても早い対応だった。

審議委員:

同じ日に大室山の山焼きの神事へ行かれていたが、雪がひどくなりすぐに戻り、色々対策をとり体制を整えたため、選挙を行っている中でも、早い対応となった。

FM伊東事務局:

今後も企画課とも危機対策課とも密に連携を図り、こういう情報をくださいなど、エフエムからも働きかけていく。実際に地震があった際には、市役所のスタジオになり、災害対策本部のすぐ隣で放送することになるので、最新の情報を市民の皆様に伝えることができる。

別紙にて、リスナーの方が番組を聴いた感想をイラストにして持ってきてくれた。とても励みになっている。

FM伊東事務局:

この他の課題として、どうやって収入を増やすかという難しい議題もあるので、また次回以降皆様の意見もお伺いしたい。

審議委員:

特殊詐欺などの防犯についても放送してくれているが、対策が進んで事件が減るといい。

FM伊東事務局:

警察とも連携して、毎週月曜日の11時から、各課が週替わりで生放送に出演してもらっている。SNS詐欺なども県警の本部から随時入ってくる最新情報を伝えている。

審議委員:

高齢者だけでなく若い人も、自分で騙されにしている。犯罪とわからなくてカンボジアに行く人も、社会に反抗するために犯罪に加担してしまう人もいる。

FM伊東事務局:

ロマンス詐欺から、SNS詐欺や投資詐欺にもなっている。なぜ騙されてしまうのか、騙す人たちも、育った環境もあると思うが、なぜそちら側へってしまうのか。

審議委員:

今の若い人たちは、テレビよりもスマホ。スマホでもニュースを見ないように思われる。

審議委員:

成長するまでの中で、そういう教育が十分に学校でされているのか。形だけやっても、次から次へと新手の詐欺が出てくる。人を疑わずに育つのか。うまい話しはないという自覚がない。

FM伊東事務局:

交通安全教室は幼稚園ぐらいからやっているが、詐欺にひっかからない対策はやっていない。

エフエムでは、来た情報をこれでもかというくらい放送しているので、ラジオを聴いてくれている方には届いていると思う。SNSでも発信している。

審議委員:

エフエムで警察の方が説明しているものだけでなく、もっとわかりやすくドラマ仕立てでやったり、社会全体の対策なのでしっかりとお金をもらって、市民を守る対策に繋がるものを作っていく方が良いように思う。音楽を聴いて楽しくドライブしようという娯楽だけでなく、社会的役割をもっと強調して、会社で案を出していく流れをができると良い。聴いてもらうためには、娯楽も充実させながら、聴きやすく、わかりやすいものを作りこんでいく。YouTubeもあるが、地元カスタマイズされた情報は貴重である。

FM伊東事務局:

まず私たちが意識すること。パーソナリティがどんな意識を持っているかは、聴いている方にはわかるので、個々の技量に違いはあるが、皆の意識を繋げていきたい。

FM伊東事務局:

パーソナリティに個性があるので、その人の発する言葉によることが、収録で同じ言葉を繰り返すことより、説得力がある。

審議委員(書面)

防災は常に意識しておくことが大事だと思うので、短い時間でも毎日そのコーナーがあることはとても重要だと思う。時間帯も平日は通勤時間帯で、多くの方に聞かれやすい時間だと思いますし、放送内容や時間もちょうどいいと思う。

「地域防災パートナー」は、インフラや行政や身近な施設が含まれていて、いざという時の情報として、信頼のおけるものになると思うので、この取り組みは、多くの方に知っていただきたいと思う。

FM伊東事務局:

いただいた意見を再度確認し、すぐにできることは行い、今後の番組編成の参考にさせていただきます。